

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア文化特論	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-津波 高志	1年	授業終了後に教室にて受付	

学びの準備	ねらい 韓国の文化について、濟州島の事例を通して理解する。	メッセージ 現地調査で蒐集した資料や映像をパワーポイントを用いて紹介する。
	到達目標 国全体と一地域との関係を文化の側面から理解することを目指す。	

学びの準備	到達目標 国全体と一地域との関係を文化の側面から理解することを目指す。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義全体の概要	
	2	分断国家の現状	
	3	韓国の歴史（1）	
	4	韓国の歴史（2）	
	5	韓国の言語と文字（1）	
	6	韓国の言語と文字（2）	
	7	濟州島の家族と親族（1）	
	8	濟州島の家族と親族（2）	
	9	濟州島の祖先祭祀（1）	
	10	濟州島の祖先祭祀（2）	
	11	濟州島の村落（1）	
	12	濟州島の村落（2）	
	13	濟州島の村落祭祀（1）	
	14	濟州島の村落祭祀（2）	
	15	まとめ	
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献として、論文の抜き刷りを配布する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 講義への出席状況もテストと同程度に評価する。
-------	----------------------------------

学びの実践	評価 韓国における地方文化と国レベルの文化のギャップについての理解が測られる。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語学特論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義では、『ことばと思考』をテーマに取り扱う。認知言語学における最新の英語論文を、じっくり丁寧に読み上げることで、研究の進め方（研究手法・分析方法）ならびに論文の書き方を学び、個人の研究テーマを見いだすきっかけにしたい。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合もある。	メッセージ
	到達目標 この講義を受講し理解した学生は、研究を進める上で必要なロジックや研究手法、ならびに英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」を身につけることができる。また、個人の研究テーマの足がかりを見つける事ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
	2	認知言語学とは	講義内で適宜指示する
	3	ことばと思考① 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する
	4	ことばと思考① 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する
	5	ことばと思考① 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する
	6	ことばと思考② 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する
	7	ことばと思考② 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する
	8	ことばと思考② 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する
	9	色彩語が視覚に与える影響 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する
	10	色彩語が視覚に与える影響 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する
	11	色彩語が視覚に与える影響 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する
	12	言語がモノ認知に与える影響 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する
	13	言語がモノ認知に与える影響 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する
	14	言語がモノ認知に与える影響 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する
	15	個別研究テーマについてのディスカッション①	講義内で適宜指示する
	16	個別研究テーマについてのディスカッション②	講義内で適宜指示する
	テキスト・参考文献・資料など 講義内にて適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。		
	学びの手立て 履修の心構えとして、以下注意してください。 ・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。 ・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。		
	評価 【平常点：30点】 講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 【課題：30点】 【発表：40点】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会言語学特論」
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学特殊研究Ⅱ	通年	月 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	2年	By appointment only. e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	This course is intended to guide students through the stages of writing their master's theses in English language teaching and learning.	This course will be taught in English and/or Japanese depending on the ability and confidence of the students. Suggested readings may vary according to students' interests and needs.

到達目標	At the end of the course, students should have completed their master's theses or written multiple drafts.
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) Week 1 Introduction Weeks 2-4 Thesis structure Weeks 5-9 Literature review; 1st draft Weeks 10-15 The Study; 2nd draft Weeks 16-21 Data Analysis & Results Weeks 22-26 Discussion & conclusion; 3rd draft Weeks 27-29 Abstract; Final draft Weeks 30-31 Oral presentations
	テキスト・参考文献・資料など To be announced in class.

学びの手立て	Students are expected to write and revise multiple drafts, produce a summarized version of their theses, and communicate their research in an oral presentation. The thesis must be related to English language teaching and include an extensive literature review and field-based quantitative or qualitative data collection and analysis. It should meet the general requirements to scientific publication. Students are fully responsible for choosing their thesis topic, research method, and undertaking the research.
--------	---

評価	Class participation, individual conferences, drafts, abstract & oral presentation.
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学特論 I	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジャコブソン	1年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This class is an introduction to English teaching with a special emphasis on teaching English as an international language.	メッセージ Students should do their best but not be too troubled if they are unable to understand everything in the readings.
	到達目標 Students should do the readings and answer the questions in the reading guide before coming to class.	

学びの準備	到達目標 Students should do the readings and answer the questions in the reading guide before coming to class.
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Introduction and Registration	
	2	English as an international language	
	3	English as an international language	
	4	Bilingual users of English	
	5	Bilingual users of English	
	6	The native/non-native dichotomy	
	7	The native/non-native dichotomy	
	8	Standards for English as an international language	
	9	Culture in teaching English as an international language	
	10	Culture in teaching English as an international language	
	11	Culture in English language textbooks	
	12	Language learning and identity	
	13	Language learning and identity	
	14	Teaching methods and English as an international language	
	15	Teaching methods and English as an international language	
16	Student presentations and course evaluation		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など McKay, S. L. (2002). Teaching English as an International Language. Oxford: Oxford University Press. Other readings provided by the instructor. Papers should conform to the APA Publication Manual
	学びの手立て Students should try to develop a research paper topic related to their thesis topic.

学びの実践	学びの手立て Students should try to develop a research paper topic related to their thesis topic.
	評価 Students will be evaluated based on attendance, participation and a research paper.

学びの実践	評価 Students will be evaluated based on attendance, participation and a research paper.
	次のステージ・関連科目 英語教育学特論II

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語教育学特論II
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学特論Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい To learn theories and methods of English teaching	メッセージ
	到達目標 (1) To acquire the basic knowledge and skills of English teaching (2) To improve English proficiency through in- and out-of-class assignments in English	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	
	2	Textbook reading & Discussion	
	3	Textbook reading & Discussion	
	4	Textbook reading & Discussion	
	5	Textbook reading & Discussion	
	6	Textbook reading & Discussion	
	7	Textbook reading & Discussion	
	8	Mid-term Exam	
	9	Textbook reading & Discussion	
	10	Textbook reading & Discussion	
	11	Textbook reading & Discussion	
	12	Textbook reading & Discussion	
	13	Textbook reading & Discussion	
	14	Textbook reading & Discussion	
	15	Textbook reading & Discussion	
	16	Final Exam	
	テキスト・参考文献・資料など Will be announced in class.		
	学びの手立て (1) Text must be read thoroughly before class. (2) Class will be conducted in English.		
	評価 Class Participation . . . . . 40% Tests . . . . . 30% Assignments . . . . . 30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語論文の書き方 I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1 年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を意識し、自分の主張を論述する方法の習得を目的とする。「なんとなく興味のある事」を「研究に値する課題」として設定する方法・仮説の立て方ならびに検証方法・文献の引用の仕方など、英語の論文を書くにあたって必要な知識をステップ毎に学ぶ。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合もある。	
到達目標	この講義を受講し理解した学生は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を身につける事ができる。また、修士論文に必要な「課題設定・仮説設定・検証方法」などの知識が得られる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
	2	英語論文の書き方概要	講義内で適宜指示する
	3	研究テーマの設定の仕方・書き方①	講義内で適宜指示する
	4	研究テーマの設定の仕方・書き方②	講義内で適宜指示する
	5	研究テーマの設定の仕方・書き方③	講義内で適宜指示する
	6	仮説の立て方・書き方①	講義内で適宜指示する
	7	仮説の立て方・書き方②	講義内で適宜指示する
	8	検証の仕方(検証・実験手法)・書き方①	講義内で適宜指示する
	9	検証の仕方(検証・実験手法)・書き方②	講義内で適宜指示する
	10	先行研究の見つけ方・引用の仕方・書き方	講義内で適宜指示する
	11	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッション①	講義内で適宜指示する
	12	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッション②	講義内で適宜指示する
	13	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッション③	講義内で適宜指示する
14	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)③	講義内で適宜指示する	
15	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)②	講義内で適宜指示する	
16	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)③	講義内で適宜指示する	
	テキスト・参考文献・資料など		
	講義開始時に指示する。		
	学びの手立て		
	履修の心構えとして、以下注意してください。 ・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。 ・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。		
	評価		
	【平常点：30点】 講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度		
	【課題：30点】		
	【発表：40点】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「英語論文の書き方 II」
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語論文の書き方Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「英語論文の書き方Ⅰ」に続き、英語の論文を書く為に必要な知識を習得する事を目的とする。分析方法の書き方、仮説に対する結果の書き方、結論・考察の書き方をステップ毎に学ぶ。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合がある。	メッセージ
	到達目標 この講義を受講し理解した学生は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を身につける事ができる。また、修士論文に必要な「分析方法・結果報告のしかた・結果や考察の書き方」などの知識が得られる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
	2	英語論文の書き方概要	講義内で適宜指示する
	3	分析方法①	講義内で適宜指示する
	4	分析方法②	講義内で適宜指示する
	5	結果報告の仕方①	講義内で適宜指示する
	6	結果報告の仕方②	講義内で適宜指示する
	7	仮説に対する結果の書き方①	講義内で適宜指示する
	8	仮説に対する結果の書き方②	講義内で適宜指示する
9	結論・考察の書き方①	講義内で適宜指示する	
10	結論・考察の書き方②	講義内で適宜指示する	
11	個人の研究テーマに関するディスカッション①	講義内で適宜指示する	
12	個人の研究テーマに関するディスカッション②	講義内で適宜指示する	
13	個人の研究テーマに関するディスカッション③	講義内で適宜指示する	
14	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)①	講義内で適宜指示する	
15	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)②	講義内で適宜指示する	
16	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)③	講義内で適宜指示する	
	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時に指示する。		
	学びの手立て 履修の心構えとして、以下注意してください。 ・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。 ・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。		
	評価 【平常点：30点】 講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 【課題：30点】 【発表：40点】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文の書き方の基礎的知識を学んだ後は、各自のテーマに沿った卒業論文に取り組んで下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米演劇特論 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米の作家によって書かれた劇作品の精読を通して、演劇というジャンルにおける表現形式の特徴を理解し、その読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米演劇特論 I」では、W. シェイクスピアの悲劇と喜劇をそれぞれ一作品ずつ取り上げる。	メッセージ 受講生は毎回、指定された範囲についてまとめたレジュメを用意し、重要なせりふを和訳する。
	到達目標 演劇作品の読解に必要な基礎力を身に付けることを目標にする。英語を出来る限り正確に読む力を鍛えると同時に、イギリスにおける演劇の歴史的文化的背景について理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義説明・オリエンテーション
	2	作品①について概説
		時間外学習の内容
	3	作品①の精読
	4	作品①の精読
	5	作品①の精読
	6	作品①の精読
	7	作品①の精読
	8	先行研究論文の読解
	9	作品②について概説
	10	作品②の精読
	11	作品②の精読
	12	作品②の精読
	13	作品②の精読
	14	作品②の精読
	15	先行研究論文の読解
	16	レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など The Riverside Shakespeare, ed. by G. Blakemore Evans (Houghton Mifflin, 1997), その他、初回の講義にて通知する。	
	学びの手立て 英和辞典、英英辞典を丁寧に引くように心がけること	
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートによって評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米演劇特論Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米の作家によって書かれた劇作品の精読を通して、演劇というジャンルにおける表現形式の特徴を理解し、その読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米演劇特論Ⅱ」では、アーサー・ミラーとテネシー・ウィリアムズの作品をそれぞれ一つずつ取り上げる予定である。	メッセージ 受講生は毎回、指定された範囲についてまとめたレジュメを用意し、重要なせりふを和訳する。
	到達目標 演劇作品の読解に必要な基礎力を身に付けることを目標にする。英語を出来る限り正確に読む力を鍛えると同時に、「英米演劇特論Ⅱ」では主として20世紀アメリカにおける演劇について理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明・オリエンテーション	
	2	作品①について概説	
	3	作品①の精読	
	4	作品①の精読	
	5	作品①の精読	
	6	作品①の精読	
	7	作品①の精読	
	8	先行研究論文の読解	
	9	作品②について概説	
	10	作品②の精読	
	11	作品②の精読	
	12	作品②の精読	
	13	作品②の精読	
	14	作品②の精読	
	15	先行研究論文の読解	
	16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など 初回の講義で通知する。		
	学びの手立て 英和辞典、英英辞典を丁寧に引くように心がけること		
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米詩特論 I	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米詩の精読を通して、押韻や比喻の使い方など、詩の読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米詩特論 I」ではイギリス・ルネッサンス期の詩を読む。	メッセージ 受講生は指定された内容について調べ、レジュメを用意したうえで授業に臨む。その際、辞書をしっかり引いておくこと。
	到達目標 英米詩の読解に必要な基礎知識を身に付けることを目標にする。特に比喻表現においては一つの言葉に複数の意味が含まれるので、英語の辞書を丹念に調べ、多義的な解釈の可能性を踏まえつつ、英語を出来る限り正確に読む力を鍛える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義説明・オリエンテーション
	2	詩のコンベンション（約束事）について概説
		時間外学習の内容
	3	Christopher Marlowe 精読 (1)
	4	Christopher Marlowe 精読 (2)
	5	Christopher Marlowe 精読 (3)
	6	Christopher Marlowe 精読 (4)
	7	W. Shakespeare 精読 (1)
	8	W. Shakespeare 精読 (2)
	9	W. Shakespeare 精読 (3)
	10	W. Shakespeare 精読 (4)
	11	John Donne 精読 (1)
	12	John Donne 精読 (2)
	13	John Donne 精読 (3)
	14	John Donne 精読 (4)
	15	先行研究論文の読解
	16	レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など Penguin Book of Renaissance Verse, ed. by David Norbrook (Penguin Classics, 1993)	
	学びの手立て	
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートにより評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米詩特論Ⅱ	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米詩の精読を通して、押韻や比喻の使い方など、詩の読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米詩特論Ⅱ」では主としてアメリカの女流詩人を取り上げる。	メッセージ 受講生は指定された内容について調べ、レジュメを用意したうえで授業に臨む。その際、辞書をしっかり引いておくこと。
	到達目標 英米詩の読解に必要な基礎知識を身に付けることを目標にする。特に比喻表現においては一つの言葉に複数の意味が含まれるので、英語の辞書を丹念に調べ、多義的な解釈の可能性を踏まえつつ、英語を出来る限り正確に読む力を鍛える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義説明・オリエンテーション
	2	詩のコンベンション(約束事)について概説
		時間外学習の内容
	3	Emily Dickinson の詩精読 (1)
	4	Emily Dickinson の詩精読 (2)
	5	Emily Dickinson の詩精読 (3)
	6	Emily Dickinson の詩精読 (4)
	7	作家とその時代について
	8	先行研究の読解
	9	Sylvia Plath の詩精読 (1)
	10	Sylvia Plath の詩精読 (2)
	11	Sylvia Plath の詩精読 (3)
	12	Sylvia Plath の詩精読 (4)
	13	作家とその時代について
	14	先行研究の読解 (1)
	15	先行研究の読解 (2)
	16	レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など 初回の講義で通知する。	
	学びの手立て	
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートで評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米小説特論 I	前期	火 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	1年	研究室：9-501 電話：098-893-6586 E-mail: sminkey@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This class aims to provide students with experience of reading, discussing, and analyzing short stories and novels. Students will also learn how to analyze works of literature by focusing on plot, characterization, symbolism, point of view, theme, and other elements of fiction.	メッセージ This class will be conducted entirely in English! Reading and discussing literature is one of the best ways to improve your English. Let's have fun discussing various short stories and novels. The difficulty of the class will be adjusted to match student ability.
	到達目標 Students will be able to analyze short stories and be able to write a simple academic paper.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)  Every two weeks, we will read and discuss a short story, starting with relatively easy stories, and working our way up to more difficult ones. There will be a short test on each story. Towards the end of the semester students will be asked to write a 3-page paper on one of the stories. Classes will be conducted entirely in English.
	テキスト・参考文献・資料など  We will be reading short stories by Langston Hughes, Richard Wright, James Joyce, and others. Copies of stories will be provided. Students are free to consult Japanese translations of the texts outside of class, but the class discussions will be conducted in English.
	学びの手立て  We will read and discuss stories together. Students should develop their own ideas and interpretations of the stories, and take a position on one of the stories in a short paper.
	評価  Short tests -- 20% Class discussion / participation / presentations -- 30% Final paper -- 50%

学びの継続	次のステージ・関連科目 英米小説特論 II
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米小説特論Ⅱ	後期	火7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	1年	研究室：9-501 電話：098-893-6586 E-mail: sminkey@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This class aims to provide students with experience of reading, discussing, and analyzing short stories and novels. Students will also learn how to analyze works of literature by focusing on plot, characterization, symbolism, point of view, theme, and other elements of fiction. Continuing from the first semester, we will read longer stories and a novel.</p>	<p>This class will be conducted entirely in English! Reading and discussing literature is one of the best ways to improve your English. Let's have fun discussing various short stories and novels. The difficulty of the class will be adjusted to match student ability.</p>
	到達目標	
	Students will gain greater confidence in reading and analyzing literature in English.	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>Using extensive readers and excerpts from original sources, we will read various short stories and a student-chosen novel.</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Copies of most stories will be provided, but students should purchase a copy of the novel they choose to write about.</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>We will read and discuss various short stories. Students will also chose a novel to read and write a paper on.</p>
	<p>評価</p> <p>Short tests -- 20% Class discussion / participation / presentations -- 30% Final paper -- 50%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米批評特論 I	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい 文学批評の理論を、テキストの精読を通して習得する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要説明	
	2	Introduction: What is Literature ① (以下、テキストの目次の通り)	
	3	Introduction: What is Literature ②	
	4	Introduction: What is Literature ③	
	5	Introduction: What is Literature ④	
	6	The Rise of English ①	
	7	The Rise of English ②	
	8	The Rise of English ③	
	9	The Rise of English ④	
	10	Phenomenology, Hermeneutics, Reception Theory ①	
	11	Phenomenology, Hermeneutics, Reception Theory ②	
	12	Phenomenology, Hermeneutics, Reception Theory ③	
	13	Phenomenology, Hermeneutics, Reception Theory ④	
	14	Structuralism and Semiotics ①	
15	Structuralism and Semiotics ②		
16	Structuralism and Semiotics ③		
テキスト・参考文献・資料など Terry Eagleton, Literary Theory: An Introduction			
学びの手立て			
評価 期末レポートを課す。成績は、原則として、予習の達成度50%、レポート50%とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米批評特論Ⅱ	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい 文学批評の理論を、テキストの精読を通して習得する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要の説明	
	2	Post-Structuralism ① (以下、テキストの目次の通り)	
	3	Post-Structuralism ②	
	4	Post-Structuralism ③	
	5	Post-Structuralism ④	
	6	Post-Structuralism ⑤	
	7	Psychoanalysis ①	
	8	Psychoanalysis ②	
	9	Psychoanalysis ③	
	10	Psychoanalysis ④	
	11	Psychoanalysis ⑤	
	12	Conclusion: Political Criticism ①	
	13	Conclusion: Political Criticism ②	
	14	Conclusion: Political Criticism ③	
15	Conclusion: Political Criticism ④		
16	Conclusion: Political Criticism ⑤		
テキスト・参考文献・資料など Terry Eagleton, <i>Literary Theory: An Introduction</i>			
学びの手立て			
評価 期末レポートを課す。成績は、原則として、予習の達成度50%、レポート50%とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文化特論	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジェコブソン	1年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This course is designed to assist students in developing their skills in understanding and analyzing British and American culture with special consideration given to aspects of culture related to language and language teaching.	メッセージ If possible, students should choose a research topic related to their thesis.
	到達目標 Students will improve their understanding of culture in English speaking countries, especially as related to how it relates to the teaching of English.	

学びの準備	到達目標 Students will improve their understanding of culture in English speaking countries, especially as related to how it relates to the teaching of English.
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Registration and Course Introduction	Reading
	2	Defining Culture	Reading
	3	Language and Culture	Reading
	4	Origins of British Culture I	Reading
	5	Origins of British Culture II	Reading
	6	Modern British Culture I	Reading
	7	Modern British Culture II	Reading
	8	International Spread of British Culture	Reading
	9	Origins of American Culture I	Reading
	10	Origins of American Culture II	Reading
	11	The Dominant American Culture	Reading
	12	American Sub Cultures I	Reading
	13	American Sub Cultures II	Reading
	14	British and American Culture Returns Home	Preparation for Presentation
	15	Individual Consultation on Research Paper	Preparation for Presentation
16	Student Presentations		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Readings provided by instructor. Students should prepare their written work in accordance with the APA Publication Manual.
-------	---

学びの実践	学びの手立て Students should be prepared to work independently outside of class on their research paper and bring questions to class that they might have on that paper.
-------	---

学びの実践	評価 Students will be evaluated on attendance, participation, a research paper and an oral presentation.
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジア文化特論
-------	------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文学特殊研究 I A	通年	水 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい 本演習では、まず修士論文執筆のための技術的な必須事項を確認した後、個々の受講生の論文テーマの設定、資料の収集、アウトラインの作成等の作業に対して指導を行う。また同時に、実際にアメリカ文学の作品を熟読し、作品のテーマや手法を中心に考察し、併せて作品に関する批評を検討する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て 修士論文執筆に関する指導は、必要に応じて随時行う。実際の講義においては、アフリカ系アメリカ人の文学を中心に、「二重意識」の問題に焦点を当てた作品である、Richard Wright著『Native Son』、Ralph Ellison著『Invisible Man』、Toni Morrison著『The Bluest Eye』等の講読を予定している。但し、受講生の修士論文執筆予定の分野からの作品講読も、個別に相談の上、検討する。
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育実習 I	後期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい To improve teaching skills.	メッセージ
	到達目標 (1) To acquire basic knowledge of second language acquisition and English teaching. (2) To acquire basic teaching skills through class observations and teaching practice. (3) To improve English proficiency through reading assignments and class discussions.	

学びの準備	ねらい To improve teaching skills.	メッセージ
	到達目標 (1) To acquire basic knowledge of second language acquisition and English teaching. (2) To acquire basic teaching skills through class observations and teaching practice. (3) To improve English proficiency through reading assignments and class discussions.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	
	2	Textbook reading & Discussion	
	3	Textbook reading & Discussion	
	4	Textbook reading & Discussion	
	5	Textbook reading & Discussion	
	6	Textbook reading & Discussion	
	7	Textbook reading & Discussion	
	8	Quiz	
	9	Class observation & discussion	
	10	Class observation & discussion	
	11	Class observation & discussion	
	12	Class observation & discussion	
	13	Workshop	
	14	Teaching Practice 1	
	15	Teaching Practice 2	
16	Reflection		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Will be announced in class.
-------	---

学びの実践	学びの手立て Students must read assigned chapters before class.
-------	--

学びの実践	評価 Class participation . . . . . 30% Quizzes . . . . . 30% Assignments . . . . . 40%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育実習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	1年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	初・中・上級の日本語教科書を教材研究し指導案を作成していく。そして、教材作成の方法や評価方法他を学んでいく。その後、模擬授業を経て、教壇に立つ。教壇実習は、本学で開講されている日本語クラスや夏期日本語研修プログラムか海外で行う。その場合は、台湾の東海大学か中国の福建師範大学、あるいはタイのパンヤーンピワット経営大学で、3週間の実習を行うことになる。	教壇実習が修士論文の内容と繋がるように実施していきましょう。
到達目標	初・中・上級の日本語教科書を教材研究し、指導案の作成ができるようになる。教壇に立ち、留学生のための日本語クラスで実習を経験し、将来は、日本国内外でも働ける人材として活躍できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要の説明等）	
2	外国語教授法の復習		
3	初級クラスの指導法及び指導案作成		
4	初級クラスの模擬授業		
5	中・上級クラス（文法）の指導法及び指導案作成		
6	中・上級クラス（読解）の指導法及び指導案作成		
7	中・上級クラス（作文）の指導法及び指導案作成		
8	中・上級クラス（聴解・会話）の指導法及び指導案作成		
9	中・上級クラス（日本/沖縄事情）の指導法及び指導案作成		
10	中・上級クラスの模擬授業		
11	年少者のための指導法（他府県の事例）		
12	年少者のための指導法（沖縄県の実例）		
13	生活者のための日本語教育（他府県の事例）		
14	生活者のための日本語教育（沖縄県の実例）		
15	初級実習		
16	中・上級実習		
	テキスト・参考文献・資料など		
	授業開始時に指示する。 ・津田塾大学言語文化研究所（2006）『第二言語学習と個別性—ことばを学ぶ一人ひとりを理解する—』春風社 ・土屋千尋編著（2005）『つたえあう日本語教育実習 外国人集住地域でのこころみ』明石書店 ・畑佐由紀子編（2008）『外国語としての日本語教育—多角的視野に基づく試み—』くろしお出版		
	学びの手立て		
	事前に日本語教育の関する文献及び資料を熟読する。課題に関して文献調査しまとめ、必要に応じて教育現場等を訪問し、参考にする。教壇実習の前に、本学で開講されている初・中・上級クラスの授業観察もすると効果的である。		
	評価		
	出席率・授業への貢献度・課題への取り組み・模擬授業・教壇実習などから総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 実習の経験を修士論文に活かし、まとめていく。県内の日本語学校で経験を積んで行くことも、次のステージへの手助けとなりうる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育特殊研究 I A	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	1年	研究室を訪問とき、必ず事前に予約すること。e. lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 第二言語の習得と教育に関する研究を概観しながら、この分野の基礎的知識と研究方法を身につけることを目的とする。	メッセージ 文献の精読や発表、ディスカッションなどを通して第二言語の習得と教育への理解を深めていく。開講言語：英語・日本語。
	到達目標 前期では、この分野について自立して研究を行うための必要な知識とスキルを習得する。後期では、まず、履修者各自が研究したいテーマを決定し、リサーチクエスションと仮説を立てる。次に、文献を収集し、調査方法を考える。最後に、効率的に調査を実施するための具体的な研究計画書を作成する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	各回の授業ごとに指示する
	2	第二言語習得とは	各回の授業ごとに指示する
	3	言語習得に関する俗説	各回の授業ごとに指示する
	4	母語習得	各回の授業ごとに指示する
	5	幼児期のバイリンガリズム	各回の授業ごとに指示する
	6	第二言語の学習環境	各回の授業ごとに指示する
	7	対照分析・エラー分析	各回の授業ごとに指示する
	8	中間言語	各回の授業ごとに指示する
	9	言語転移	各回の授業ごとに指示する
	10	第二言語学習者の個人差	各回の授業ごとに指示する
	11	行動主義的・生得的言語習得観	各回の授業ごとに指示する
	12	認知心理的・社会文化的アプローチ	各回の授業ごとに指示する
	13	第二言語の学習と教育	各回の授業ごとに指示する
	14	観察研究	各回の授業ごとに指示する
	15	教授方法の提案	各回の授業ごとに指示する
	16	前期のまとめ	各回の授業ごとに指示する
	17	学術論文作成の基本	各回の授業ごとに指示する
	18	研究テーマの設定	各回の授業ごとに指示する
	19	先行研究の調べ方と検討方法	各回の授業ごとに指示する
	20	リサーチ・クエスションと仮説の立て方	各回の授業ごとに指示する
	21	アウトラインの作成	各回の授業ごとに指示する
	22	先行研究の文献レビュー：文献探索と選択	各回の授業ごとに指示する
	23	先行研究の文献レビュー：文献の読み込み	各回の授業ごとに指示する
	24	先行研究の文献レビュー：先行研究の批判	各回の授業ごとに指示する
	25	自分の研究課題の位置づけ	各回の授業ごとに指示する
	26	研究方法の検討	各回の授業ごとに指示する
	27	調査実施と手順	各回の授業ごとに指示する
	28	研究倫理	各回の授業ごとに指示する
	29	研究計画の立案	各回の授業ごとに指示する
30	研究計画の作成	各回の授業ごとに指示する	
31	後期のまとめ・経過報告と今後の予定	各回の授業ごとに指示する	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 配布資料（英語・日本語）</p>
	<p>学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。</p>
	<p>評価 授業参加態度、口頭発表、レポートによる総合評価。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 「言語教育特殊研究ⅡA」</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育特殊研究 I B	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジャコブソン	1年	e-mail: jacobsen@okiu.ac.jp phone: 098-893-1699	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の登録とオリエンテーション	文献講読
	2	英語教育学の専門語	文献講読
	3	英語教育学の語彙と定義問題	文献講読
	4	研究テーマと研究方法	文献講読
	5	研究企画書の書き方	文献講読
	6	国際語を通じた英語 (歴史背景)	文献講読
	7	国際語を通じた英語 (内円・外円・拡大円)	文献講読
	8	国際語を通じた英語教育 (バイリンガル教員)	文献講読
	9	国際語を通じた英語教育 (標準語)	文献講読
	10	国際語を通じた英語教育 (文化)	文献講読
	11	国際語を通じた英語教育 (教授法)	文献講読
	12	言語と文化 (異文化理解教育)	文献講読
	13	言語と文化 (日本の英語のテキスト)	中間発表の準備
	14	中間発表	文献講読
	15	前期の評価と纏める	文献講読
	16	後期の登録とオリエンテーション	文献講読
	17	言語とアイデンティティ	文献講読
	18	英語教育の言語とアイデンティティ (帰国生)	文献講読
	19	ネイティブ・ノンネイティブ・スピーカーの問題と英語教育 (ネイティブ)	文献講読
	20	ネイティブ・ノンネイティブ・スピーカーの問題と英語教育 (ノンネイティブ)	文献講読
	21	ネイティブ・ノンネイティブ・スピーカーの問題と英語教育 (日本)	文献講読
	22	日本の英語教育 (和製英語)	文献講読
	23	日本の英語教育 (JETプログラム)	文献講読
	24	日本の英語教育 (チームティーチング)	文献講読
	25	沖縄の英語教育の特色 (歴史の背景)	文献講読
	26	沖縄の英語教育の特色 (ハーフ)	文献講読
	27	アジアの英語教育のケーススタディー (中国)	文献講読
	28	アジアの英語教育のケーススタディー (韓国)	文献講読
	29	アジアの英語教育のケーススタディー (シンガポール)	発表の準備
30	最終発表	文献講読	
31	授業の評価と纏め		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>McKay, S. (2002). Teaching English as an international language. Oxford: Oxford University Press          Publication Manual of the American Psychological Association (Sixth Edition)</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
学 び の 実 践	<p>評価</p> <p>口頭発表とレポートの質</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>言語教育特殊研究II</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育特殊研究 I C	通年	火 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 ヒョンジョン	1年	hlee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この特殊研究は、修士論文にかかわる研究と執筆の出発段階として位置づけ、研究計画書に基づいて、研究テーマ、目的、意義等を絞っていく。また、研究テーマと関連する先行研究を踏まえながら、主な研究手法を具体的に組み立て、予備調査の実施および今後の計画案の詳細について考えていく。	まずは、日本語教育分野の先行研究について、特に自分の研究テーマに関連する先行研究について見識を深めていくことが必須です。その際は、批判的な視点で先行研究を読み取ること、そこから問題点や解決すべき課題を見つけることが重要です。2年の研究期間はとても短いものであることを念頭に置き、研究方法における緻密な計画と遂行に心がけましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教育分野の文献及び先行研究の論文を批判的に読み取り、問題点を絞ることができる。</li> <li>先行研究を踏まえて、自分の研究テーマと内容を再検討したうえで、具体的な研究計画と遂行方法を絞ることができる。</li> <li>研究の遂行において予備調査が必要であると判断した場合は、調査の実施と検証を進め、今後の本調査における改善点を探ることができる。</li> <li>本調査等の計画と実施について具体的な内容と遂行スケジュールを立てることができる。</li> <li>早めの調査計画および実施を通して、研究内容について十分な点検と検証を行うことができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義の目的および今学期の流れについて確認	
	2	研究計画書の確認（研究テーマ、研究目的、研究結果の意義）	
	3	日本語教育研究のこれまでの流れと最近の動向について	
	4	研究テーマに関連する文献リスト	
	5	先行研究の報告と考察①	
	6	先行研究の報告と考察②	
	7	先行研究の報告と考察③	
	8	先行研究の報告と考察④	
	9	研究計画書の見直し①	
	10	研究計画書の見直し②	
	11	予備調査の実施と分析①	
	12	予備調査の実施と分析②	
	13	予備調査結果とまとめ	
	14	夏季休暇中の研究調査の計画①	
	15	夏季休暇中の研究調査の計画②	
	16	夏季休暇中の進行状況の報告	
	17	後期の流れの確認と研究計画の報告	
	18	具体的な研究計画と手法	
	19	本調査の準備①	
	20	本調査の準備②	
	21	本調査の実施①	
	22	本調査の実施②	
	23	本調査の実施③	
	24	調査結果の分析と考察①	
	25	調査結果の分析と考察①	
	26	調査結果の分析と考察①	
	27	調査結果のまとめ①	
	28	調査結果のまとめ②	
29	研究の途中点検		
30	修士論文の具体的な執筆に向けて		
31	小年度のまとめ、及び、春季休暇中の研究遂行の計画について報告		



学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは講義内で案内します。他に、正しい研究遂行のために次の文献をお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋順一、渡辺文夫、大淵憲一 編 (1998) 『人間科学 研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版</li> <li>・佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法』新曜社</li> <li>・末田清子、抱井尚子、田崎勝也、猿橋順子 編 (2011) 『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版</li> <li>・細川英雄 (2012) 『研究活動デザイン-出会いと対話は何を変えるか-』東京図書</li> </ul>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>修士論文の完成までは、①問題意識と関連の先行研究の分析、②社会貢献につながる研究テーマの設定と研究計画、③緻密な研究調査の遂行と分析、④研究調査の結果まとめ、⑤論文執筆と公表、という段階が必要で、これらを2年間で達成することはかなりの難関とも言えます。早めの先行研究の分析を通して、次の研究計画、研究調査等にスムーズにつなげていけるよう頑張ってください。</p>
	<p>評価</p> <p>&lt;平常点50点&gt; 講義への参加度、討議、発表などを評価。      &lt;論文50点&gt; 論文研究計画段階から研究調査実施までの一連の流れにおける報告と状況、研究に対する姿勢等を総合的に判断。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>今年度の研究活動の進捗状況をまとめて中間諮問に備える。後は、研究調査の結果について深い分析視点での考察・まとめを通して、修士論文執筆の完了を目指す。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語とメディア	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-西郡 仁朗	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

次のステージ・関連科目
-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会言語学特論	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	1年	研究室を訪問するときは必ず事前に予約を取る。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、社会言語学の諸分野に関する基礎知識、理論及び研究方法を学び、研究実践に繋げることを目的とする。	メッセージ ①使用言語：日本語・英語。②講義内容は受講者の興味やニーズによって変更する可能性がある。③受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。
	到達目標 ①指定論文の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、論理的・批判的思考力を育成する。 ②学んだ知識とスキルを自由な発想に基づき応用展開させる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction インTRODダクシヨン	各回の授業ごとに指示する
	2	What is Sociolinguistics? 社会言語学とは	"
	3	The Mirco-Macro Distinction ミクロ社会言語学とマクロ社会言語学	"
	4	Language Choice 言語の選択	"
	5	Variation & Change バリエーション・変化	"
	6	Gender & Age ジェンダー・年齢	"
	7	Ethnicity & Region 民族・地域性	"
	8	Social Class & Attitudes 社会階層・言語意識	"
9	Style, Context & Register スタイル・コンテクスト・レジスタ	"	
10	Language Contact 言語接触	"	
11	Language Maintenance, Shift & Endangerment 言語の維持・シフト・消滅危機	"	
12	Language Policy and Planning 言語政策と計画	"	
13	Applied Sociolinguistics (1) 応用社会言語学(1)	"	
14	Applied Sociolinguistics (2) 応用社会言語学(2)	"	
15	Research Project (1) 研究計画(1)	"	
16	Research Project (2) 研究計画(2)	"	
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料(英語・日本語)		
	学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。		
	評価 授業参加態度、レポート及び口頭発表による総合評価。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「マルチリンガル教育特論」、「英語学特論」、「日本語学特論」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学特論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、現代日本語の文法論における様々なカテゴリーについて理解を深めることを目的とします。現在の日本語文法は、学校教育現場と研究との間で生じているズレなど、その位置づけに関して様々な問題を孕んでいます。関連文献を精読し、それぞれのカテゴリーに関する議論の流れをふまえた上で、問題点についての報告とディスカッションを行います。	メッセージ 活発な議論を期待しています。
-------	--	-------------------------

到達目標	・日本語文法論に関する学問的動向を理解し、専門的な知識を身に付ける。
------	------------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u></p> <p>おおむね以下のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス 日本語文法論の基礎的事項の概説および確認 検討するカテゴリーの選択 文献の精読 以下の項目に関する報告 ・選択した内容に関する先行研究の分析 ・疑問点、問題点 報告内容に関するディスカッション レポートについて</p> <p>なお、受講人数によって報告の回数を決定します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは使用しません。講義内において資料を紹介、または配布します。</li> </ul>
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の興味関心に基づいて報告対象とするカテゴリーを決めていきます。修士論文に関わらせのもよいです。</li> <li>・受講人数によっては複数回の報告を求める場合があります。</li> </ul>
--------	--

評価	報告およびレポートの内容、討議への参加態度を総合的に判断します。
----	----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 学術的手法を用いて研鑽を重ね研究課題を遂行し、社会に貢献できるような専門家に成長して欲しい。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育学特殊研究Ⅱ	通年	木3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 朋子	2年	講義終了時に教室で受けつけます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語教育学特殊研究Ⅱでは、春期休暇中に実施した調査の確認、及び先行研究のまとめの確認を行い、必要があればテーマの調整も行う。そして、修論の構成を最終的に考え、中間発表、そして、最終発表に向けて準備を進めていく。それと平行して、先行研究との比較検証を継続的に行い、結果をまとめ、精査を繰り返し、結論を導き出す。	先行研究を批判的に読み込みながら調査の分析考察を行い、結論を導き出す。知見に基づいた学術的姿勢と科学的な調査姿勢が求められる。
到達目標	まずは、中間発表を第一の目標地点とする。そのために、先行研究の研鑽を基盤として、研究の動機や目的、そして、研究の方法を確実なものにし、実施した調査の分析と考察から仮説の検証を行う。そして、第二の目標地点までに（最終発表となるが）結論を導き、まとめ上げていく。先行研究との比較検証を恒常的に行い、精査を繰り返し、論を展開させるという一連の緻密な作業を通して研究姿勢を培い日本語教育の専門家として成長していくことが最終的な到達目標となる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（本学期的目標や進め方の確認、学会参加の奨励等）	
	2	春期休暇中の調査・研究の実施状況の報告と確認	
	3	テーマの再確認、目次・構成の構築、作業計画、及び修士論文概要を作成する	
	4	調査手法の再確認、必要とされる事柄の再確認	
	5	調査の進捗状況の報告、そして、問題点等の確認	
	6	調査結果の分析と考察①	
	7	調査結果の分析と考察②	
	8	仮説の検証①	
	9	仮説の検証②	
	10	先行研究との比較検証①	
	11	先行研究との比較検証②	
	12	調査のまとめと課題①	
	13	調査のまとめと課題②	
	14	中間発表に向けて、流れを確認し、資料を作成する。	
	15	参考文献、資料のリストの再確認	
	16	中間発表のリハと最終確認	
	17	夏期休暇中の進捗状況と課題の確認	
	18	中間発表における指摘を受けて、論文の構成、内容を再考する①	
	19	中間発表における指摘を受けて、論文の構成、内容を再考する②	
	20	結論を導く①	
	21	結論を導く②	
	22	結論の確認と検証①	
	23	結論の確認と検証②	
	24	最終的に、先行研究との比較検証を行う①	
	25	最終的に、先行研究との比較検証を行う②	
	26	最終発表に向けて、論文を精査しまとめあげる①	
	27	最終発表に向けて、論文を精査しまとめあげる②	
	28	最終発表に向けて、論文の構成と流れを最終確認①	
	29	最終発表に向けて、論文の構成と流れを最終確認②	
30	発表用資料を作成する。		
31	最終発表のリハと最終確認		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>竹内理・水本篤（2012）『外国語教育研究ハンドブッカー研究手法のより良い理解のために一』松柏社  中井精一編（2005）『社会言語学の調査と研究の技法 フィールドワークとデータ整理の基本』おうふう  長友和彦・森山新・向山陽子（2016）『第二言語としての日本語習得研究の展望』ココ出版  他</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>課題が順次出されるが、講義時間外での研鑽や作業が主となるため、それらが十分に遂行できるよう時間の確保、そして体調管理に努めること。遅刻欠席の際は、事前事後に必ず理由を知らせ担当教員とコミュニケーションをしっかりと取ること。文献を批判的に読み込んで参考にしていくことが基盤となることから、参考文献を博読していくことが求められる。</p>
	<p>評価</p> <p>課題への取り組み、一連の論文執筆への取り組み、中間発表、最終発表への取り組み等、総合的に評価を行う。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、日本語教育学特論I・II、日本語論文の書き方I・II、社会言語学特論、日本語学特論、言語教育実習I・II等を履修し、専門分野における課題や問題意識を養うと同時に、多様な研究手法を身につけ、専門家として次の段階へと歩を進めていってほしい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育学特論 I	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	1 年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「多様化」したとされる現在の日本語教育について考えていく。また、日本語を第二言語とする様々なタイプの学習者に効率よく、限られた時間でどのように習得させるのか等、ディスカッションを交え考察する。文献及び資料を熟読し、レジュメを作成したのち、発表することで、自分なりの教育的視点を持ち、日本語教育に必要な知識を蓄えることを目指す。</p>	<p>修士論文の内容に沿った興味のある文献を選び、今日における日本語教育について、共に学んでいきましょう！</p>
到達目標	<p>★文献講読⇒レジュメ作成⇒発表⇒ディスカッションを通し、日本語教育学の動向を把握する。 ★日本語教育の様々な領域における現状と課題について考える。 ★日本語教育における多様性を認識し、現状と課題を新たな教育観で考察していく。 ★修士論文の内容のための資料収集を目指す。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要の説明等）	文献及び資料収集
	2	言語、外国語、日本語、日本語教育とは何か	文献及び資料収集
	3	世界の日本語教育	レジュメ作成・報告準備
	4	日本、沖縄の日本語教育	レジュメ作成・報告準備
	5	発表①	
	6	外国教授法の変遷	文献及び資料収集
	7	何を教えるか	文献及び資料収集
8	どう教えるか	レジュメ作成・報告準備	
9	どう評価するか	レジュメ作成・報告準備	
10	発表②		
11	地域の日本語教育	文献及び資料収集	
12	年少者の日本語教育	文献及び資料収集	
13	介護及び看護のための日本語教育	レジュメ作成・報告準備	
14	教師と様々な学習者	レジュメ作成・報告準備	
15	発表③		
16	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など	<p>授業開始時に指示する。 ★佐々木倫子、他（2015）『日本語教育の現場から 言語を学ぶ/教える場を豊かにする50の実践』 ★国立国語研究所 編（2006）『日本語教育の新たな文脈—学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性』アルク ★庵功雄（2016）『やさしい日本語—多文化共生社会へ—』岩波書店 ★その他</p>		
学びの手立て	<p>★様々な日本語教育（特に自分の研究分野）に関する文献及び資料の熟読をしましょう。 ★日本語教育学会の学会誌、さらに関連する研究会や学会などにも興味を持つことで、日本語教育の動向を把握しましょう。 ★講義を通して得た知識や視点を、修士論文につなげていきましょう。</p>		
評価	<p>出席率・授業への貢献度、文献講読、レジュメ作成、発表、ディスカッションなどから総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 後期の「日本語教育学特論Ⅱ」も受講しましょう！</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育学特論Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井上 泉	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>多文化共生の波は日本語教育にも確実に及んできています。本科目では、日本語教育への変容しつつあるニーズへの理解に基づき、従来とは異なる新たな教育的アプローチについて論考します。特に、プロとしての日本語教育者とは何か、日本語教育および学習における問題解決に焦点を当てたものとなります。</p>	<p>私自身の多文化共生社会における日本語教師としての経験も参考に、理論的な知識を教育の現場でどのように応用していけばいいのかを積極的かつ内省的に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>・文献のリーディング・ディスカッションを通して、多文化共生および日本語教育学の関係性およびプロフェッショナルとしての日本語教育者に関する理解を深める</p> <p>・ディスカッション・グループワークを中心として、新たな教育的アプローチを探求し、提案する</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
2	多文化共生社会と言語教育(概論)		
3	多文化共生社会における日本語教育		
4	エキスパート論 (認知心理学より)		
5	プロアマの諸相違 (概論)		
6	プロアマの諸相違 (言語教育分野)		
7	グループプレゼン1 (多文化共生社会と日本語教育)		
8	Teacher belief		
9	日本語教育における問題解決		
10	Innovative teaching method 1		
11	Innovative teaching method 2		
12	Innovative teaching method 3		
13	教育的アプローチに関する研究方法1		
14	教育的アプローチに関する研究方法2		
15	グループプレゼン2 (日本語教育における教育的アプローチの提案)		
16	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時文献などプリントを配布 参考文献については1週目に通知します</p>		
学びの手立て	<p>革新的な教育的アプローチの探求および研究には、日本語教育分野に限らず、学際的に関連する研究などの文献に触れることが重要です。批判内省的能力を駆使しつつ、大きな視野で探求していきましょう。</p>		
評価	<p>文献のリーディングと報告・ディスカッション (25%) , グループ・プレゼンテーション (50%), レポート (25%)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語教育実習Ⅱ」を通して実践的スキルを養いましょう。</li> <li>・特殊研究を通して修士論文作成に力を入れていきましょう。</li> </ul>
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語論文の書き方 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 美奈子	1 年	minakot@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい “この授業では、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。具体的に前期では、論文の定義や実質的条件を学び、その上で、論文の形式的条件、例えば、論文の組み立て方や論文を書くために知っておくべきルールを学ぶ。最終的には自身の修士論文のテーマに沿った論文構成の作成を目指す。”	メッセージ 修士論文の研究内容については、ゼミ指導教員の先生方にお任せしますが、論文の形式的な側面については、少しでも力になれたらと思っております。修士論文提出までがんばりましょう。
	到達目標 1. 論文と他の文章の違いを理解できる。 2. 論文執筆までの手順がわかる。 3. 論文の構成や体裁など、論文の形式的なルールについて理解できる。 4. 論文を書くために必要な文献収集や図書館の使い方などがわかる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	論文とは何か	
	3	論文作成のための具体的な手順	
	4	論文の構成 1	
	5	論文の構成 2	
	6	論文を書くためのルール 1	
	7	論文を書くためのルール 2	
8	論文を書くためのルール 3		
9	論文を書くためのルール 4		
10	文献・資料の収集法 1		
11	文献・資料の収集法 2		
12	文献・資料の収集法 3		
13	論文構成の作成 1		
14	論文構成の作成 2		
15	論文構成の作成 3		
16	論文構成と論文執筆計画の提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など “木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 斉藤孝 (1998) 『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部 浜田麻里 他 (1997) 『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 新堀聡 (2002) 『評価される博士・修士・卒業論文の書き方考え方』同文館 道田泰司・宮元博章 (1999) 『クリティカル進化論』北大路書房 細川英雄 (2008) 『論文作成デザイン』東京図書		
	学びの手立て 基本的に欠席連絡や講義の質問等、連絡事項はメールでお願いします。欠席する場合には、事前にメールで連絡してください。また、欠席当日が課題提出日の場合には、メールでその翌日までに提出してください。		
	評価 1. 平常点 (60点) : 各回の課題提出、議論、発表などの評価 2. 最終レポート (40点) : 修士論文の構想レジュメならびに「論文とは何か」のレポートの提出による評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の「日本語論文の書き方II」はこの科目の継続科目です。「日本語論文の書き方II」では、前期に学んだことを実践していきますので、適宜、テキストや参考文献等をよく読み、復習をしておいてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語論文の書き方Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 美奈子	1年	minakot@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>この授業では、前期の「日本語論文の書き方I」に引き続き、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。具体的に前期で作成した論文構想に従って、論文の草稿（序論）を執筆することを目指す。さらに、修士論文の一部を研究会で発表あるいは紀要等の研究雑誌論文への投稿を目指す。</p>	<p>修士論文の研究内容については、ゼミ指導教員の先生方にお任せしますが、論文の形式的な側面については、少しでも力になれたらと思っております。修士論文提出までがんばりましょう。</p>

学びの準備	到達目標
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文に必要な先行研究の収集ができる。</li> <li>2. 論文の形式的なルール（引用の仕方、論文構成、注の書き方など）に従って、論文を書くことができる。</li> <li>3. 論文の序論を書くことができる。</li> <li>4. 研究会や学会等の発表要領、紀要等の研究論文執筆要領を理解し、それに従った申請書を書くことができる。</li> </ol>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	論文の構想発表	
	3	「研究テーマ」（テーマ設定の理由）を書いてみよう	
	4	「研究の目的と方法」を書いてみよう1	
	5	「研究の目的と方法」を書いてみよう2	
	6	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう1	
	7	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう2	
	8	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう3	
	9	「はじめに」と「序論」をまとめてみよう1	
	10	「はじめに」と「序論」をまとめてみよう1	
	11	「はじめに」と「序論」をまとめてみよう1	
	12	扱うデータを紹介してみよう	
	13	データの分析をしてみよう1	
	14	データの分析をしてみよう2	
15	データの提示の仕方を工夫してみよう		
16	論文の「序論」の発表・提出		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫          斉藤孝（1998）『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部          浜田麻里 他（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版          新堀聡（2002）『評価される博士・修士・卒業論文の書き方考え方』同文館          道田泰司・宮元博章（1999）『クリティカル進化論』北大路書房          細川英雄（2008）『論文作成デザイン』東京図書</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>基本的に欠席連絡や講義の質問等、連絡事項はメールでお願いします。欠席する場合には、事前にメールで連絡してください。また、欠席当日が課題提出日の場合には、メールでその翌日までに提出してください。</p>

学びの実践	評価
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点（60点）：各回の課題提出、議論、発表などの評価</li> <li>2. 最終レポート（40点）：修士論文の「序論」および研究会発表要旨・紀要等への研究要旨の提出による評価</li> </ol>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次なるステージは、やはり修士論文の執筆です。データの収集・分析・考察などかなり時間を要しますが楽しい作業です。がんばってください。</p>
-------	---

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	マルチリンガル教育特論	前期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	1 年	研究室を訪問ときは必ず事前に予約を取る こと。e.lee@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい A general introduction to the study of multilingualism and multilingual education. Students will gain an understanding of the key perspectives that have been posed about multilingualism, issues surrounding the teaching and learning of a 2nd or 3rd language, and practices in diverse social and educational contexts around the world.	メッセージ ①使用言語：日本語・英語。②講義内容は受講者の興味やニーズによって変更する可能性がある。③受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。
	到達目標 ①指定論文の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、理論的思考力を高める。②学んだ知識とスキルを応用して何らかの実証研究を行うことができる。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction インTRODダクシヨ	各回の授業ごとに指示する。
	2	Terminological inconsistencies 用語の定義 (1)	”
	3	Becoming multilingual 多言語習得 (1)	”
	4	Becoming multilingual 多言語習得 (2)	”
	5	Staying multilingual 多言語能力の維持 (1)	”
	6	Staying multilingual 多言語能力の維持 (2)	”
	7	Acting multilingual 多言語使用・混用 (1)	”
	8	Acting multilingual 多言語使用・混用 (2)	”
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料 (英語・日本語)		
	学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。		
	評価 授業参加態度、レポート及び口頭発表による総合評価。		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 「社会言語学特論」、「英語学特論」、「日本語学特論」
-----------------------	---

※ポリシーとの関連性 ヨーロッパ連合の形成によって、多言語、多文化の共生社会を求め  
ていかなばならないヨーロッパを知ることは、異文化理解を促す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヨーロッパ文化特論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-漆谷 克秀	1年	授業終了後の受け付ける。	

学びの準備	ねらい 「多様性の中の統一」という理念でヨーロッパ連合の試みが実行されている。戦争の世紀を経てきた反省から「対話」による平和の希求、「文化的多元性の尊重」、そのような理念を支える文化的、思想的、地域的基盤を考える。	メッセージ 現代社会は、議会制民主主義、市場経済にもとづく資本主義の枠組のうちに成立している。この枠組を形成し、先導してきたのがヨーロッパである。現在のヨーロッパの取り組みを考えることは、将来の日本の形成につながっていくと認識できるでしょう。
	到達目標 「多様性の中の統一」という理念によるヨーロッパ連合の形成は今も続いている。そのために、どのような努力が払われてきたか、また、現在もどのような努力が払われているか、を知る。其れを可能とした文化的、宗教的、地域的な基盤とその差異を併せて知るようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義説明、オリエンテーション
	2	「ヨーロッパ」の概念の変遷、ヨーロッパを再考
	3	EUの歴史と現在
	4	ヨーロッパ諸言語の歴史的親近性
	5	EUにおける多言語主義
	6	ヨーロッパ諸文化の神話と民話
	7	近代ヨーロッパ社会における音楽と文学
	8	二大思想潮流から辿るヨーロッパ思想史①
9	二大思想潮流から辿るヨーロッパ思想史②	
10	ヨーロッパにおけるキリスト教の変遷	
11	キリスト教諸宗派の比較	
12	19世紀末からのヨーロッパのモダニズム芸術の誕生と変遷	
13	女性芸術家たち、ジェンダーの視点	
14	日欧交流史	
15	ヨーロッパとはなにか、EUの試みは成功するか	
16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など 『ヨーロッパ学入門（改訂版）』武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編（朝日出版）	
	学びの手立て 「なにか?」、「なぜか?」という知的な好奇心を持ってください。	
	評価 授業への貢献度、学期末のレポートで評価。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------